

景気動向指数

1 福岡県の景気動向指数（2012年6月）

- (1) 先行指数：2か月連続で50%を上回った。
- (2) 一致指数：2か月連続で50%を上回った。
- (3) 遅行指数：10か月ぶりに50%を下回った。

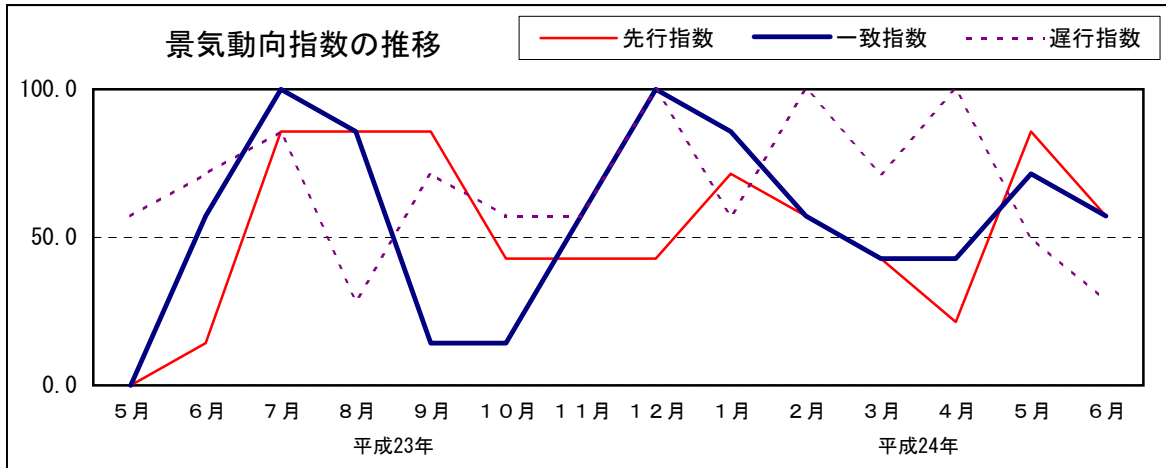
福岡県

| | | 先行指数 | 一致指数 | 遅行指数 |
|-----------------|------|------|-------|-------|
| 平成23年 (2011) | 6月 | 14.3 | 57.1 | 71.4 |
| | 7月 | 85.7 | 100.0 | 85.7 |
| | 8月 | 85.7 | 85.7 | 28.6 |
| | 9月 | 85.7 | 14.3 | 71.4 |
| | 10月 | 42.9 | 14.3 | 57.1 |
| | 11月 | 42.9 | 57.1 | 57.1 |
| 平成24年 (2012) | 12月 | 42.9 | 100.0 | 100.0 |
| | 1月 | 71.4 | 85.7 | 57.1 |
| | 2月 | 57.1 | 57.1 | 100.0 |
| | 3月 | 42.9 | 42.9 | 71.4 |
| | 4月 | 21.4 | 42.9 | 100.0 |
| | 5月 | 85.7 | 71.4 | 50.0 |
| 6月 | 57.1 | 57.1 | 28.6 | |

全国

| | | 先行指数 | 一致指数 | 遅行指数 |
|-----------------|------|------|-------|------|
| 平成23年 (2011) | 6月 | 27.3 | 86.4 | 66.7 |
| | 7月 | 72.7 | 100.0 | 25.0 |
| | 8月 | 72.7 | 90.9 | 58.3 |
| | 9月 | 36.4 | 31.8 | 66.7 |
| | 10月 | 45.5 | 54.5 | 58.3 |
| | 11月 | 54.5 | 45.5 | 58.3 |
| 平成24年 (2012) | 12月 | 45.5 | 81.8 | 33.3 |
| | 1月 | 72.7 | 63.6 | 33.3 |
| | 2月 | 90.9 | 81.8 | 50.0 |
| | 3月 | 90.9 | 90.9 | 66.7 |
| | 4月 | 60.0 | 80.0 | 90.0 |
| | 5月 | 20.0 | 60.0 | 70.0 |
| 6月 | 30.0 | 20.0 | 40.0 | |

資料出所：福岡県調査統計課、内閣府「景気動向指数(DI)」



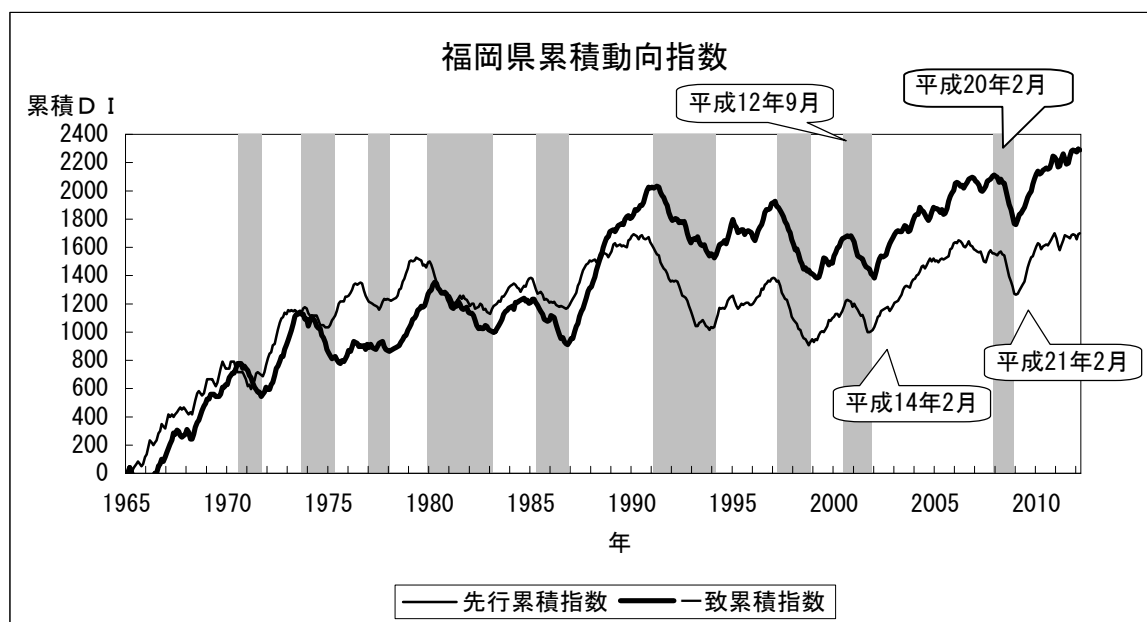
○ 個別系列の変化方向

| | プラスの指標（3か月前との比較） | マイナスの指標（3か月前との比較） |
|------|---|---|
| 先行系列 | 生産財生産指数 新規求人数 新設住宅着工床面積 最終需要財在庫率指数 | 日経商品指数 ▼乗用車新車登録台数 ▼輸入通関実績 |
| 一致系列 | 所定外労働時間数<製造業> 鉱工業生産指数<総合> 電力使用量<大口> 有効求人倍率 | 鉱工業出荷指数<総合> スーパー販売額 輸出通関実績 |
| 遅行系列 | 常用雇用指数<全産業> 地銀貸出約定平均金利 | 雇用保険受給者実人員 ▼鉱工業在庫指数<総合> ▼消費者物価指数（福岡市） 勤労者世帯消費支出（福岡市） 法人事業税調定額 |

※△は前回のマイナス指標からプラス指標になったことを、▼はプラス指標からマイナス指標になったことを示す。
※変化方向0は便宜上プラスとしている。

景気動向指数

2 福岡県の累積動向指数（1965年9月～2012年6月）



資料出所：福岡県調査統計課

（参考）累積景気動向指数（累積DI）

毎月公表している景気動向指数の月々の値を累積したものが累積景気動向指数（累積DI）です。累積（DI）はある基準年月（1965年4月）を0とし、次式により月々累積して求めています。

$$\text{累積DI（当該月分）} = \text{前月の累積DI} + \text{（当該月のDI} - 50\text{）}$$

累積DIは、基調的な動きをわかりやすく、視覚的にとらえやすいという利点をもっています。なお、グラフのシャドウ部分は、景気の後退期をあらわしています。

福岡県の景気基準日付（景気の山、景気の谷）

| 谷 | 山 | 谷 | 拡張期間 | 後退期間 | 全循環 |
|----------|----------|----------|--------|--------|--------|
| | 昭和45年10月 | 昭和46年12月 | | 14か月 | |
| 昭和46年12月 | 昭和48年11月 | 昭和50年7月 | 24か月 | 20か月 | 44か月 |
| 昭和50年7月 | 昭和52年3月 | 昭和53年4月 | 20か月 | 13か月 | 33か月 |
| 昭和53年4月 | 昭和55年2月 | 昭和58年5月 | 22か月 | 39か月 | 61か月 |
| 昭和58年5月 | 昭和60年7月 | 昭和62年2月 | 26か月 | 19か月 | 45か月 |
| 昭和62年2月 | 平成3年4月 | 平成6年5月 | 50か月 | 37か月 | 87か月 |
| 平成6年5月 | 平成9年6月 | 平成11年2月 | 37か月 | 20か月 | 57か月 |
| 平成11年2月 | 平成12年9月 | 平成14年2月 | 19か月 | 17か月 | 36か月 |
| 平成14年2月 | 平成20年2月※ | 平成21年2月※ | (72か月) | (12か月) | (84か月) |

※平成20年2月の景気の山と同21年2月の景気の谷は暫定

（参考）景気基準日付

景気の拡張局面と景気の後退局面を分ける景気の転換点のことであり、景気動向指数の一致指数から作成されるヒストリカルDI（HDI）が50%を超える、もしくは切るときが景気の拡張局面と後退局面を分ける転換点となります。HDIが50%ラインを上から下に切るときが景気の「山」、下から上に切るときが景気の「谷」とわれています。

※HDI：通常使用している一致指数から不規則変動を除去したもの